

Title	高木寿一名誉教授略歴・著作目録
Sub Title	高木寿一名誉教授略歴および著作目録 A chronology of Prof. Juichi Takagi A bibliography of the writings of Prof. Juichi Takagi
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1970
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.63, No.2 (1970. 2) ,p.215(103)- 218(106)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	高木寿一教授退任記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19700201-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

$$Z = m \left(\frac{(1-r)aA}{(1-m)^m K} \right)^{\frac{1}{m+1}}, \quad p = \{(1-r)a\}^{\frac{1}{m+1}} \left\{ \frac{K}{(1-m)A} \right\}^{\frac{m}{m+1}}$$

最後に、租税がない場合の t, L, Z と、生産物税が課せられた場合の t, L, Z とを比較してみよう。

生産物税が課せられた場合の t は、租税がない場合の t の $\left(\frac{1}{1-r}\right)^{\frac{1}{m+1}}$ 倍されている。 $(1-r)$ は 1 と 0 の間の値をとるから $\frac{1}{1-r}$ は 1 より大きい。 m も 1 より小さい正数であるから $\left(\frac{1}{1-r}\right)^{\frac{1}{m+1}}$ は 1 より大きい。従って、生産物税が課せられた場合、投資期間 t が延長されることが分かる。

次に、生産物税が課せられた場合の L と Z はともに、租税がない場合の L, Z の $(1-r)^{\frac{1}{m+1}}$ 倍されている。 $(1-r)$ は 1 より小さい正数で m は 1 と 0 の間の値をとるから $(1-r)^{\frac{1}{m+1}}$ は 1 より小さい正数である。従って、生産物税が課せられた場合、賃金所得 L と利子率 Z は (この体系では均等に) 低下させられるのが分かる。

〔参考文献〕

- [1] Myrdal, G.: Das politische Element in der nationalökonomischen Doktrinbildung, 1932. (山田雄三訳)
- [2] 高木寿一: 租税利益説に関する問題, 三田学会雑誌, 第 56 巻第 8 号
- [3] Wicksell, K.: Finanztheoretische Untersuchungen, 1896.
- [4] Musgrave, R. A.: The Theory of Public Finance, 1959. (木下和夫監訳)
- [5] Wicksell, K.: Über Wert, Kapital und Rente, 1893. (北野熊喜男訳)
- [6] Stigler, G. J.: Production and Distribution Theories, 1941. (松浦保訳)

高木寿一名誉教授略歴

生年月日 明治32年2月26日生
 本籍地 東京都中央区京橋新川町2の4
 現住所 東京都世田ヶ谷区下馬6丁目19の2

大正10年3月 慶應義塾大学理財科卒業。
 大正10年4月より 同大学院に在学。
 13年3月まで
 大正13年4月1日 慶應義塾高等部教員に就任。
 昭和2年1月より 財政学および経済学研究のため、慶應義塾留学生として英・独両国に2年間派遣される。
 4年2月まで
 昭和5年4月より 同高等部副主任を兼務。
 7年3月まで
 昭和13年4月より 同高等部主任を兼務。
 18年10月まで
 昭和17年10月より 同大学経済学部講師(財政学)を兼務。
 昭和18年4月より 慶應義塾商業学校教員を兼務。
 昭和18年10月 慶應義塾高等部教授を退職し、同高等部および経済学部の講師となる。
 昭和24年4月 慶應義塾大学経済学部教授に就任。
 昭和24年9月より 同大学学生部長を兼務。
 25年1月まで
 昭和25年1月より 同大学就職部長を兼務。
 30年5月末日まで
 昭和28年10月 経済学博士の学位を授与される。
 昭和30年10月より 慶應義塾大学通信教育部長を兼務。
 36年10月末日まで
 昭和36年1月 同大学産業研究所所員を兼務。
 昭和44年3月 慶應義塾大学を定年退職。
 昭和44年4月 慶應義塾大学経済学部名誉教授。なお、現在、大学院経済学研究科の財政学演習で、法学部の財政学、経済学部の「自由研究」を担当している。

慶應義塾外の職務略歴

昭和18年10月より 神奈川県商工経済会理事長、横浜商工会議所専務理事に就任。
 24年2月まで
 昭和23年1月 地方財政委員会顧問を委嘱される。
 昭和27年4月より 横浜市立大学商学部講師を委嘱される。
 32年3月まで
 昭和29年9月より 公共企業体等中央調停委員会委員長に就任。
 31年7月まで
 昭和32年7月より 東京都公安委員に就任。
 44年7月まで
 昭和32年9月 日本財政学会の推薦により、総理大臣命の国費派遣によって国際財政学会のウィーン大会に出席。
 昭和34年6月より 国家公務員採用上級試験専門委員に任命される。
 現在まで各年に

昭和36年6月より 司法試験考査委員に任命される。
43年まで各年
その他、文部省の大学設置審議会専門委員、民間学術研究機関助成協議会委員など、
また大蔵省税務講習所、農林省林業講習所の講師を委嘱される。
昭和42年4月より 流通経済大学経済学部講師を委嘱される。
44年3月まで
昭和44年4月 流通経済大学経済学部教授(財政学)に就任して現在にいたる。

賞 罰

昭和27年11月 慶應義塾大学より学術上の業績により「義塾賞」を授与される。
昭和39年11月 慶應義塾より勤続40年により表彰される。
昭和44年11月 勲二等に叙せられ瑞宝章を授与される。

以上
(昭和45年1月記)

著作目録

著 書

「世界戦後の国家財政」 同文館 昭和7年
「戦時財政論」 日本評論社 昭和8年
「現代国家財政及財政政策」 時潮社 昭和12年
「戦争と財政金融」(金原賢之助, 町田義一郎, 永田清氏と共著) 時潮社 昭和12年
「財政類型論」 日本評論社 昭和14年
「日本財政・税制の構成」 ダイアモンド社 昭和16年
「戦争財政の経済理論」 北隆館 昭和18年
「戦争と財政(戦時財政の基礎知識)」 慶應出版社 昭和18年
「大東亜戦争の財政理論」(慶應義塾高等部学術研究会編「大東亜の社会と経済」所収) 昭和18年
「近世財政思想史」 北隆館 昭和24年
「現代財政学総論」 金星堂 昭和25年
「財政学」(大蔵省会計実務講座) 大蔵省主計局 昭和25年
「財政学」(慶應義塾大学通信教育教材) 昭和26年
「現代日本財政論」 金星堂 昭和27年
「近代国家財政の理論」 慶應通信 昭和29年
「財政学十五講」 慶應通信 昭和30年
「財政政策」(大熊一郎, 古田精司氏と共著) 世界書院 昭和40年

訳 書

「英国経済組織」(W. J. Ashley 著) 中外文化協会 大正13年
「租税負担能力と国民所得」(Silverman 著) (金融研究会叢書第2編 所収)
「国家経費の経済理論」(G. Colm 著) (金融研究会叢書第2編 所収)
「取引税又は売上税問題」(National Industrial Conference Board) (金融研究会叢書第2編 所収)

三田学会雑誌掲載論文

羊毛工業の発達と Merchant Adventurers (一)~(五) 16巻1号~16巻5号(大正11年)
近世初期の英国株式会社に対するスコットの観察(上)(下) 17巻1号~17巻2号(大正12年)
チュールドル, スチュアート両朝に於ける工業政策 (一)~(四) 17巻3号~17巻6号(大正12年)
英国穀物市場の史的考察 (一)~(四) 18巻3号~18巻6号(大正13年)
「近世資本主義」第二版序文・緒論に於けるゾンバルト 18巻7号(大正13年)
エドワード三世に関する一考察 (一)~(二) 18巻10号~18巻11号(大正13年)
阿部秀助先生の学術的生涯 19巻2号(大正14年)
英国産業革命史一般の説明 19巻9号(大正14年)
グスタフ・カッセル「経済学の根本思想」の一節 20巻2号(大正15年)
中世英国工業統制の一解説 20巻7号(大正15年)
ビグー, ダルトンの資本課税論(附 コルウィン委員会報告書) 24巻4号(昭和5年)
租税経済論序説 26巻1号(昭和7年)
本邦財政の必然的動向と累進課税の経済的作用に就て 26巻12号(昭和7年)
ソヴェート租税政策概論 27巻10号(昭和8年)
現代租税制度に於ける一般取引税の地位と本質 28巻11号(昭和9年)
フィリップ・スノーデンの自叙伝 29巻3号(昭和10年)
本邦財政学の新刊書に就て 30巻1号(昭和11年)
現代国家財政の類型 30巻3号(昭和11年)
地方財政改善に関する内閣審議会中間報告(内閣調査局編纂) 30巻6号(昭和11年)
戦時租税政策の諸問題 33巻3号(昭和14年)
現代公債政策の発展過程(序論) 40巻5号(昭和22年)
財政学に於ける経費論の問題 (一)~(三) 41巻4号~41巻6号(昭和23年)
公共経費の効果の可測性について 42巻5・6号(昭和24年)
「均衡財政」の理論と合目的性 43巻2号(昭和25年)
財政学に於けるケインズ革命の結果——新しい財政学体系の可能性 45巻2号(昭和27年)
均衡予算の乗数効果に関する理論の現実的妥当性——膨脹効果か収縮効果か 45巻12号(昭和27年)
ヒックスの「厚生国家に於ける租税政策」について 48巻3号(昭和30年)
現代財政学に関する若干の疑問——一つの覚え書 49巻10号(昭和31年)
現代日本の国家支出の構造分析——財政資金の処分と国家給付の諸形態について 51巻4号(昭和33年)
* 金原賢之助博士の生涯——52巻3号(昭和34年)
昭和年代初期の財政学の転換過程に於ける若干の疑問——現代財政学の前段階の回顧 52巻8号(昭和34年)
1950年代後期の日本財政学に於ける財政の本質および体系に関する問題——前進のための若干の疑問の提出 53巻8号(昭和35年)
1960年度の国税構造が持つ税収の所得弾力性および限界租税函数 54巻8号(昭和36年)
財政学の基本的課題に関する疑問と解釈——財政学の前進拠点の再検討 55巻9号(昭和37年)
租税利益説に関する問題——1950年代末の段階におけるリンダールの解釈について 56巻8号(昭和38年)
現代財政学の支配的解釈に関する疑問について 58巻3号(昭和40年)
財政学方法論に関連する問題——カール・メンガーおよび岡野鑑記博士の解釈に対する疑問の提出 59巻7号(昭和41年)
公共欲望および公共財に関連する問題——一つの覚え書 60巻11号(昭和42年)

アドルフ・ワグナーの「財政学」における主要課題の解釈 62巻2号(昭和44年)

J. S. ミルの財政学説における若干の主要課題の解釈 63巻2号(昭和45年)

「昭和年代始期に於ける財政学説の転換過程——現代財政学の前段階の回顧と若干の疑問の提出」
慶應義塾創立百年記念、慶應義塾大学経済学会編、「日本における経済学の百年」(下巻 所収) (昭和34年5月刊行)

「現代財政学の基本的課題に関する若干の疑問」井藤半弥博士退官記念論文集 (昭和35年10月刊行)

「財政学の前進拠点の検討」加藤一雄博士在職35年記念論文集 (昭和36年6月刊行)

「財政学の基本的課題の検討——解釈と疑問の提出」花戸龍蔵博士古稀記念論文集 (昭和37年9月刊行)

「財政学の研究における「対象の把握」について——ひとつの覚書」 国民経済雑誌 (昭和40年9月号)

附記 以上の他の雑誌および新聞などに掲載された論稿は、多数にわたるのでここではすべて省略した。

The Theory of Public Finance of J. S. Mill and its Historical Character

by Juichi Takagi

The starting point of the political economy of the classical School in England was Adam Smith, "The Wealth of Nation" (1776), but in the middle of the 19th century the development of the theory of political economy reached to the new stage in J. S. Mill, "Principles of Political Economy" (1848→7th edition 1871).

In the preface of this book, J. S. Mill wrote that "The Wealth of Nations is in many parts obsolete and in all, imperfect" (Principles of Political Economy, edited by W. J. Ashley, Preface, p. 18).

In this paper, select several problems in his theories which have some importance as yet, and deal with their historical character.

(1) The conception of "Productive Labour" of J. S. Mill was different from that of Adam Smith. It means that A. Smith dealt with the direct effects of Public Expenditure, and J. S. Mill dealt with effects (utility) of Public Services created by Public Expenditures, as a mode in which labour indirectly instrumental to production—as indirect productive labour (A. Smith, The Wealth of Nations, 1776, edited by E. Cannan, pp. 324-5—J. S. Mill, Principles of Political Economy, 1848—7th Edition, 1871, edited by W. J. Ashley, pp. 36-7).

(2) Important problems shown by J. S. Mill which had the historical characters were "Unemployed Capital" and "Export of Capital". He indicated the existing fact of unemployed capital in England in the meaning that a fund may be seeking for productive employment and find none, adapted to the inclination of its possessor; it then is capital still, but unemployed capital" (Principles of Political Economy, edited by Ashley, p.56). He wrote on the export of capital as follows, "it may be said truly that, up to a certain point, the more capital we send away, the more we shall possess and able to retain at home" (p. 739). This fact means that industrial capitalism of England had reached to the stage of maturity in the 3rd quarter of the 19th century and had already one of basic characteristics of coming stage of imperialistic development of capitalism.

(3) J. S. Mill classified the functions of Government in general into (a) the necessary functions and (b) optional functions. His classification, in modern meaning, it seems to me to have, at least in its root, something common to the ideas expressed by one of dominant view of the present